

開催レポート

■第11回東北発コンパクトシティ推進研究会開催概要

第11回となる今回は、平成29年10月11日～12日に福島県福島市で開催し、1日目に事例紹介（東北地方整備局建政部、花巻市、福島県、福島市）、現地視察、班別討議、2日目には班別討議、全体討論という構成で行いました。

1日目は、東北地方整備局建政部から「コンパクトシティに関する取り組み事例等」、花巻市から「花巻市立地適正化計画によるまちづくりについて」、福島県から「福島県内の取り組み事例」、福島市から「福島市の立地適正化計画と関連事業について」を紹介して頂きました。その後、福島市内の福島駅前リニューアル事業や都市機能まちなか立地事業の現地視察を行い、以下の4つのテーマについて班別討議を行いました。

- ①目指すべきまちづくりの方針とその実現に向けた戦略について
- ②誘導施設、誘導区域の設定と誘導施設の取り組みについて
- ③都市の将来像に応じた交通ネットワークの形成について
- ④都市と農村の連携、近隣地域との連携について

2日目は、引き続き班別討議を行い、討議後、各班から討議内容を発表して頂き、全体で問題・課題に関する討論を行い、各先生方から全体を通したご講評を頂きました。



■開催日時・場所等

開催日：平成29年10月11日 13:00～17:15

平成29年10月12日 8:45～12:00

会場：福島県福島市 ホテル辰巳屋 8F瑞雲の間

主催：東北発コンパクトシティ推進研究会（事務局：国土交通省東北地方整備局）

後援：日本都市計画学会東北支部

出席者：学識経験者および国、県、市町村の都市計画担当者

（学識経験者）福島大学名誉教授 鈴木 浩 氏

弘前大学大学院研究科長 北原 啓司 氏

長岡技術科学大学副学長 中出 文平 氏

東北大学大学院准教授 姥浦 道生 氏

■開催プログラム・配布資料等

【1日目】

1. 開会
2. あいさつ
3. 出席者紹介
4. 事例紹介 「コンパクトシティに関する取り組み事例等」 Report1
（国土交通省 東北地方整備局 建政部 都市・住宅整備課）
「花巻市立地適正化計画によるまちづくりについて」 Report2
（岩手県 花巻市 建設部 都市政策課 都市再生室）
「福島県内の取組み事例」 Report3
（福島県 土木部 都市計画課）
「福島市の立地適正化計画と関連事業について」 Report4
（福島県 福島市 都市政策部 都市計画課）
6. 現地視察
福島駅前通りリニューアル整備事業 他、福島市内3箇所 Report5
7. 班別討議 Report6
 - ①目指すべきまちづくりの方針とその実現に向けた戦略について
 - ②誘導施設、誘導区域の設定と誘導施設の取り組みについて
 - ③都市の将来像に応じた交通ネットワークの形成について
 - ④都市と農村の連携、近隣地域との連携について

【2日目】

1. 班別討議
2. 全体討論 （情報提供 福島大学名誉教授 鈴木浩氏「都市と農村の連携について」）
3. 情報提供 東北地方整備局 情報提供資料「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業について」
4. 閉会

Report1 【事例紹介】

【PDF資料】

コンパクトシティに関する取り組み事例等

国土交通省 東北地方整備局 建政部 都市・住宅整備課

国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課より、「コンパクトシティに関する取り組み事例等」と題して、立地適正化計画に取り組んでいる青森県弘前市及び山形県鶴岡市の事例、分野間連携の先行的取組として居住調整地域の設定による市街地拡散の抑制に取り組む青森県むつ市の事例、東北圏以外の取り組みとして姫路市を中心として複数の市町が合同となって作成した立地適正化計画などの事例を紹介頂きました。また、立地適正化計画の検討の進め方についてお話頂きました。



Report2 【事例紹介】

【花巻市HP】

花巻市立地適正化計画によるまちづくりについて

岩手県 花巻市 建設部 都市政策課 都市再生室

岩手県花巻市より、「花巻市立地適正化計画によるまちづくりについて」と題して、都市の空洞化を契機に策定した立地適正化計画について、策定する上での着眼点や誘導区域の設定方針について紹介頂きました。その他に、病院まちなか移転や広場整備等の関連事業、地域公共交通網形成計画の策定についても紹介頂きました。また、今後の花巻市におけるまちづくりの考え方である「点を線に、線を面に」の具体例として、花巻駅周辺の公共施設を中心とした経済の域内循環についてお話頂きました。



Report3 【事例紹介】

【PDF資料】

福島県内の取組み事例

福島県 土木部 都市計画課

開催県である福島県より、「福島県内の取組み事例」と題して、都市づくりビジョンや商まち条例といった福島県のコンパクトシティの推進施策や郡山市の立地適正化計画における都市機能誘導区域の考え方、福島県内のまちづくり支援について紹介して頂きました。また、将来的な都市の持続を目的として、自治体間の連携による都市機能の補完・分担や交通事業者との連携の可能性を検討するため開催している「公共交通沿線まちづくり勉強会」についてお話頂きました。



Report4 【事例紹介】

【PDF資料】

福島市の立地適正化計画と関連事業について

福島県 福島市 都市政策部 都市計画課

開催都市である福島市より、「福島市の立地適正化計画と関連事業について」と題して、策定中である福島市立地適正化計画における都市機能区域、都市機能誘導施設の設定に関する考え方や今後の策定スケジュール、課題について紹介いただきました。

また、市内を循環するももりん100円バス等の公共交通や持続可能な公共交通体系を構築するため策定した地域公共交通網形成計画、中心市街地活性化のための事業についてお話し頂きました。



Report5 【現地視察】

福島駅前通りリニューアル整備事業 他、福島市内3箇所

福島県 土木部 都市計画課

福島県 福島市 都市政策部 都市計画課

福島県及び福島市より、快適・安全でゆとりある人にやさしい歩行環境の形成や沿道店舗等と道路空間が一体となって賑わいを創出することを目指して、県、福島市、地元が『福島駅前通り景観まちづくり協定』を締結して実施している、福島駅前通りリニューアル整備事業についてご説明いただきました。

また、平成30年開院予定の大原総合病院移転新築事業と大原総合病院前の大町地下横断歩道整備事業や古き良き時代のレトロモダンをレンガ基調のシンボルストリートとして再現したレンガ通り、街なか広場などについてご説明頂きました。



Report6 【班別討議・全体討論】

立地適正化計画策定に取り組む自治体や地域交通に取り組む自治体が多いことから、昨年と同様の班別討議テーマ（①～③）を継続するとともに、東北発コンパクトシティの基本方針にもある「都市と農村や近隣、地域の連携」を新たなテーマを加え、以下の4つを班別討議・全体討論のテーマとしました。

- ①目指すべきまちづくりの方針とその実現に向けた戦略について
- ②誘導施設、誘導区域の設定と誘導施設の取り組みについて
- ③都市の将来像に応じた交通ネットワークの形成について
- ④都市と農村の連携、近隣地域との連携について

班別討議の後、参加者より各班の議論内容を発表して頂き、全体で問題・課題に対する解決策や取り組み事例などを共有し、各先生方から全体を通したご講評を頂きました。

テーマ①：目指すべきまちづくりの方針とその実現に向けた戦略について

司会進行 弘前大学大学院研究科長 北原 啓司 氏

発表概要

- ◆目指すべき持続可能な目指すべきまちづくりとしては「住み続けたいまち」「行きたいまち」「移動しやすいまち」「子育て世代も高齢者も笑えるまち」といった方向性が必要と考えられる。
- ◆立地適正化計画による取り組みによっては、行政と住民のビジョンの共有や既存施設との複層化、空き屋・空き地対策、集合住宅の街なか誘導、拠点毎の特色を生かせる公共公益施設の街なか整備、空き店舗の活用、民間による街なかの開発誘導、持続的な公共交通網の形成といったことが実現できると考えられる。
- ◆立地適正化計画に加えて、民間活力との連携・誘導や雇用の拡大、若い世代・子育て世帯のための支援、高齢者の住み替え、空き地・空き屋対策、集落市町村の利便性、大規模空き地の再生モデル、都市計画区域外、プレーヤーの育成などを考えていかないといけない。
- ◆被災市町村の震災復興計画は、安全な地域に住むことや復興するための都市機能誘導を考えており、立地適正化計画にほかならない。立地適正化計画の考え方で震災復興事業を進める必要がある。



テーマ②：誘導施設、誘導区域の設定と誘導施設の取り組みについて

司会進行 長岡技術科学大学副学長 中出 文平 氏

発表概要

- ◆誘導施設・誘導区域設定における課題として、課題を見つける方法、郊外へ移転してしまった都市機能が多い、明確な区域設定の基準、誘導する施策の組み立てなどがある。
- ◆また、誘導施設・誘導区域の設定は他部局と連携して全庁体制で行っていく必要があるが、他部局からの関心が薄いといった課題がある。
- ◆居住誘導区域の設定は人口規模や、各市町村が置かれている状況を把握して、同じ状況に置かれている市町村と見比べることも必要である。また、範囲を絞って設定することが必要となるが、居住区域と都市機能誘導区域を同時に考えるべき。市町村のビジョン実現や施設の誘導、公共交通の維持のため自治体としての覚悟が必要である。
- ◆区域設定に関しては公共交通との連携が非常に大事であり、公共交通や地域公共交通網形成計画と整合を図っていく必要がある。



テーマ③：都市の将来像に応じた交通ネットワークの形成について

司会進行 東北大学大学院准教授 姥浦 道生 氏

発表概要

- ◆マイカー依存が大きく公共交通機関が住民の移動手段として使われていないことが課題である。自治体によるが情報提供が不十分であることが原因の一つである。
- ◆バスだけではなく、様々な手段を使って移動で困っている人がいなくなれば良いとの視点で考えればよい。
- ◆公共交通は赤字・黒字といった視点では無く、なくてはならない公共サービスとして捉える視点も必要である。
- ◆それぞれの都市構造に応じた交通ネットワークを考える必要がある。その時に、交通ネットワーク拠点での乗り換えのハードルをどうやって下げていくか考える必要がある。
- ◆事業主体として自治体に関わるだけでなく、住民が主体的に地域の足を確保する意識が必要である。



発 表 概 要

- ◆公共交通は運営経費、高齢者が利用対象者であること、マイカー依存、事業者の利益重視などの課題がある。対応として、自家用車の利用を否定せず、若者の足としても利用する等新たなニーズを掘り起こすことを考える必要がある。
- ◆廃校利用は利用の希望が無い、実施主体が少ないといった課題があるが、事例も参考に検討すべきである。また、今後の地域資源の活用のため、都市の目を農村に向ける下地づくりも必要である。
- ◆グリーンツーリズムは、実践者が高齢化、繁忙期は対応できないといった課題があり、例えば過剰なもてなしをしないなどの考え方の共有を行う。また、子供の頃からグリーンツーリズム等に対する考え方を知ってもらうような教育的な観点も必要である。
- ◆立地適正化計画は都市計画区域内だけではなく、市町村全体で考えることが大事であり、その際に農山村地域の発展や都市と農村の連携を考えていく必要がある。
- ◆都市と農村の連携を議論する機会が無いので、まずは行政内で横の連携及び民間ベースでの連携を深める必要がある。



【 班 別 討 議 ・ 全 体 討 論 に お け る 総 評 】

・ 弘前大学大学院研究科長 北原 啓司 氏

都市の大きなビジョンをしっかりと作り、立地適正化計画はあくまでツールとして使っていき事が大切であり、このことを意識している自治体が多いのは良いことだと思う。また、ビジョンをどう作っていくかということについて皆さんで議論していく方法（場）があるということは、本推進研究会として正しい考え方だと思う。

・ 長岡技術科学大学副学長 中出 文平 氏

まちづくりには将来像をどう描くかと、様々な課題をどう解決するかが求められる。それぞれの都市の特長を活かす取組が必要であり、その時に立地適正化計画をツールとしてどう使うかである。これから立地適正化計画を策定する自治体は全庁を挙げまちの魅力が出せるような施策を洗い出し、それを紡いで自分の町をどうするか長期的な展望を持って考えて欲しい。

・ 東北大学大学院准教授 姥浦 道生 氏

公共交通を維持する中で、地域の人たちが主体となる必要があるが、実際にやることは難しい。行政は公共交通という一つの問題に対して商業や農業等総合的な観点で問題を解決していくことが求められる。これらを実施する際、行政と住民で同じ方向を向き、どのように住民をサポートしながらやっていくか考える必要がある。

・ 福島大学名誉教授 鈴木 浩 氏

都市と農村の連携は空間的な問題だけでなく、経済的・生活的な連携が必要であり、これをどうやって進めるか考えるべきである。また、立地適正化計画は周辺の農村・近隣との関係で考えていく必要がある。などについて、1960年代以降の東北地方の地方都市と農山村の歩み、地方自治と住民自治の重要性、都市と農村の経済的連携を具体化した例として高知市ひろめ広場の紹介、原発災害による福島における生活再建と地域再生の課題についての資料に基づいてお話頂きました。[【PDF資料】](#)

